

『窓ぎわのトットちゃん』語彙14

——中間の語彙の意味分野別構造1 部門別比較——

田 島 毓 堂

0. はじめに

前々稿「『窓ぎわのトットちゃん』語彙12——中間の語彙について（試案）——」で、「中間語彙」というものを、上位語彙——累積使用率80%の度数階級までの語——と度数1語彙を除いた語と措定した。前稿「『窓ぎわのトットちゃん』語彙13——中間の語彙の品詞別構成——」では上位語彙・中間語彙・度数1語彙の品詞別構成を検討し、それぞれがおのおの特徴を持つことが知られた。用の類・相の類で、中間語彙は使用率・異なり語率ともその層内で上位語彙・度数1語彙のそれよりも高いということが指摘できた。ただ、中間語彙の特徴はこの点からも決定的なものではなかった。数量的分布という視点からは限界があった。

1.1 『窓ぎわのトットちゃん』語彙の意味分野別構造

品詞別構成について、前稿の内容を繰り返すことはしない。『南の島のティオ』語彙でもほぼ同じであった。数量的に見ただけでも若干の特徴は指摘できたが、限界があった。本稿では、その意味分野別構造について検討してみたい。

中間語彙の意味分野別構造について検討する前提として、全体の意味分野別構造を示し、それと、上位語彙、中間語彙、度数1語彙の意味分野別構造を、部門別・中項目別・コード別に比較してみよう。このように比べてみて、中間語彙の意味分野別構造に何らかの特色があるのか無いのかを調べてみるという手順で、本稿を進めようと思う。なお、本稿では、先に「中間語彙」を考える上では記号を除いた自立語・付属語全体を対象として取り扱う（以前の稿で「徐記号」と称した語彙）のが妥当だと結論を得たので、それに従ってこの自立語・付属語を対象として扱う。

また、その後で、『南の島のティオ』語彙（以下『南』語彙という）のそれと比べてみて、『窓ぎわのトットちゃん』語彙（以下『窓』語彙という）の中間語彙だけの特徴なのか、他のものとも共通するのかを考えてみる。

1.1.1 部門別意味分野別構造

1.1.1.1 全体の部門別意味分野別構造

まず全体の意味分野別構造をみる（以下、コードの数字の次の [] 内にそのカテゴ

表0 『窓ぎわのトットちゃん』語彙部門別意味分野別構造

	部門	語数	語数率	度数	度数率	語例
1	1.1	661	14.60	5073	8.29	大変さ
2	1.2	345	7.62	3166	5.17	財閥
3	1.3	584	12.90	1907	3.11	特別製
4	1.4	395	8.72	1644	2.68	港
5	1.5	313	6.91	1598	2.61	小児麻痺
6	2.1	486	10.73	3497	5.72	ちよっとする
7	2.3	494	10.91	4380	7.16	開拓する
8	2.4	1	0.02	2	0.00	包帯する
9	2.5	53	1.17	160	0.26	病気になる
10	3.1	366	8.08	4304	7.04	割と
11	3.2	2	0.04	2	0.00	世界的
12	3.3	200	4.41	736	1.20	賑やかだ
13	3.5	84	1.85	260	0.42	新鮮だ
14	4.1	36	0.79	756	1.23	そもそも (接続)
15	4.3	99	2.18	414	0.67	はじめまして
16	5.3	1	0.02	1	0.00	御ん
17	6.1	1	0.02	1	0.00	ー (挿入辞)
18	7.0	1	0.02	1	0.00	っ (末尾音)
19	7.1	4	0.08	10	0.01	だらけ
20	7.2	3	0.06	4	0.00	ちゃん
21	7.3	1	0.02	1	0.00	がる (接尾)
22	8.0	72	1.59	20491	33.52	やら (副助)
23	8.1	14	0.30	1672	2.73	のみ (副助)
24	8.3	1	0.02	18	0.02	なんか (副助)
25	9.0	13	0.28	5766	9.43	です (助動詞)
26	9.1	7	0.15	794	1.29	ず (助動詞)
27	9.3	3	0.06	122	0.19	せる (助動詞)
28	10.1	20	0.44	1101	1.80	ところ (形)
29	10.3	17	0.37	771	1.26	ちょうだい (補)
30	13.0	2	0.04	2	0.00	the
31	15.1	3	0.06	15	0.02	東横線
32	15.2	203	4.48	1870	3.05	三菱
33	15.3	11	0.24	14	0.02	満州事変
34	15.4	3	0.06	3	0.00	賛花園
35	15.5	11	0.24	111	0.18	のらくろ
36	20.0	2	0.04	118	0.19	ちゃ (連語)
37	20.1	10	0.22	268	0.43	所 (縮約形)
38	20.3	3	0.06	70	0.11	なんて (連語)
39	20.5	1	0.02	1	0.00	苦がきや (連語)

リーの名前を略記する)。

表0が『窓』語彙の部門別意味分野別構造である。39の部門に分かれる。次に、それを語数・度数順に並べ直してみる。

表1に語数の多い順に、表2に度数の高い順に示す。本稿では、前述のように、対象に付属語も含めてある。それで、度数順で見ると、8.0 [助詞]、9.0 [助動詞] が最上位にきている。この助詞・助動詞を除いてみると、その順位は若干異なるが、語数順で

表1 『窓ぎわのトットちゃん』語彙部門別意味分野別構造 語数順

	部門	語数	語数率	累積語数率	度数	度数率	累積度数率	語例
1	1.1	661	14.60	14.60	5073	8.29	8.29	大変さ
2	1.3	584	12.90	27.50	1907	3.11	11.41	特別製
3	2.3	494	10.91	38.42	4380	7.16	18.58	開拓する
4	2.1	486	10.73	49.16	3497	5.72	24.30	ちよっとする
5	1.4	395	8.72	57.88	1644	2.68	26.99	港
6	3.1	366	8.08	65.97	4304	7.04	34.03	割と
7	1.2	345	7.62	73.59	3166	5.17	39.21	財閥
8	1.5	313	6.91	80.51	1598	2.61	41.83	小児麻痺
9	15.2	203	4.48	84.99	1870	3.05	44.89	三菱
10	3.3	200	4.41	89.41	736	1.20	46.09	賑やかだ
11	4.3	99	2.18	91.60	414	0.67	46.77	はじめまして
12	3.5	84	1.85	93.46	260	0.42	47.19	新鮮だ
13	8.0	72	1.59	95.05	20491	33.52	80.72	やら(副助)
14	2.5	53	1.17	96.22	160	0.26	80.98	病気になる
15	4.1	36	0.79	97.01	756	1.23	82.21	そもそも(接続)
16	10.1	20	0.44	97.45	1101	1.80	84.02	ところ(形)
17	10.3	17	0.37	97.83	771	1.26	85.28	ちょうだい(補)
18	8.1	14	0.30	98.14	1672	2.73	88.01	のみ(副助)
19	9.0	13	0.28	98.43	5766	9.43	97.45	でーす(助動詞)
20	15.5	11	0.24	98.67	111	0.18	97.63	のらくろ
21	15.3	11	0.24	98.91	14	0.02	97.65	満州事変
22	20.1	10	0.22	99.13	268	0.43	98.09	所(縮約形)
23	9.1	7	0.15	99.29	794	1.29	99.39	ず(助動詞)
24	7.1	4	0.08	99.38	10	0.01	99.40	だらけ
25	9.3	3	0.06	99.44	122	0.19	99.60	せる(助動詞)
26	20.3	3	0.06	99.51	70	0.11	99.72	なんて(連語)
27	15.1	3	0.06	99.58	15	0.02	99.74	東横線
28	7.2	3	0.06	99.64	4	0.00	99.75	ちゃん
29	15.4	3	0.06	99.71	3	0.00	99.75	賛花園
30	20.0	2	0.04	99.75	118	0.19	99.95	ちゃ(連語)
31	3.2	2	0.04	99.80	2	0.00	99.95	世界的
32	13.0	2	0.04	99.84	2	0.00	99.95	the
33	8.3	1	0.02	99.86	18	0.02	99.98	なんか(副助)
34	2.4	1	0.02	99.88	2	0.00	99.99	包帯する
35	5.3	1	0.02	99.91	1	0.00	99.99	御ん
36	6.1	1	0.02	99.93	1	0.00	99.99	ー(挿入辞)
37	7.0	1	0.02	99.95	1	0.00	99.99	っ(末尾音)
38	7.3	1	0.02	99.97	1	0.00	99.99	がる(接尾)
39	20.5	1	0.02	99.99	1	0.00	99.99	苦がきゃ(連語)

も、度数順でも、大体は似通っている。

語数順に上位の10位までは、1.1 [抽象的關係(体)]、1.3 [人間活動(体)]、2.3 [人間活動(用)]、2.1 [抽象的關係(用)]、1.4 [生産物と道具]、3.1 [抽象的關係(相)]、1.2 [人間活動の主体]、1.5 [自然及び自然現象(体)]、15.2 [固有人名]、3.3 [人間活動(相)]である(以上で、ほぼ異なり語数の90%になる)。この内、1.4、3.3は度数順にみれば、10位以下になる。語数順の11位以下は、語数が10位の半数以下となり、11

表2 『窓ぎわのトットちゃん』語彙部門別意味分野別構造 度数順

	部門	語数	語数率	累積語数率	度数	度数率	累積度数率	語例
1	8.0	72	1.59	1.59	20491	33.51	33.51	やら (副助)
2	9.0	13	0.28	1.87	5766	9.43	42.95	でーす (助動詞)
3	1.1	661	14.64	16.51	5073	8.30	51.25	大変さ
4	2.3	494	10.90	27.42	4380	7.16	58.41	開拓する
5	3.1	366	8.08	35.51	4304	7.04	65.46	割と
6	2.1	486	10.73	46.24	3497	5.72	71.18	ちょっとする
7	1.2	345	7.61	53.86	3166	5.17	76.36	財閥
8	1.3	584	12.89	66.76	1907	3.12	79.48	特別製
9	15.2	203	4.48	71.24	1870	3.05	82.54	三菱
10	8.1	14	0.30	71.55	1672	2.73	85.27	のみ (副助)
11	1.4	395	8.72	80.27	1644	2.68	87.96	港
12	1.5	313	6.91	87.19	1598	2.61	90.58	小児麻痺
13	10.1	20	0.44	87.63	1101	1.80	92.38	ところ (形)
14	9.1	7	0.15	87.78	794	1.29	93.68	ず (助動詞)
15	10.3	17	0.37	88.16	771	1.26	94.94	ちょうだい (補)
16	4.1	36	0.79	88.95	756	1.23	96.18	そもそも (接続)
17	3.3	200	4.41	93.37	736	1.20	97.38	賑やかだ
18	4.3	99	2.18	95.56	414	0.67	98.06	はじめまして
19	20.1	10	0.22	95.78	268	0.43	98.50	所 (縮約形)
20	3.5	84	1.85	97.63	260	0.42	98.92	新鮮だ
21	2.5	53	1.17	98.80	160	0.26	99.18	病気になる
22	9.3	3	0.06	98.87	122	0.19	99.38	せる (助動詞)
23	20.0	2	0.04	98.91	118	0.19	99.58	ちゃ (連語)
24	15.5	11	0.24	99.16	111	0.18	99.76	のらくろ
25	20.3	3	0.06	99.22	70	0.11	99.87	なんて (連語)
26	8.3	1	0.02	99.24	18	0.02	99.90	なんか (副助)
27	15.1	3	0.06	99.31	15	0.02	99.93	東横線
28	15.3	11	0.24	99.55	14	0.02	99.95	満州事変
29	7.1	4	0.08	99.64	10	0.01	99.97	だらけ
30	7.2	3	0.06	99.71	4	0.00	99.97	ちゃん
31	15.4	3	0.06	99.77	3	0.00	99.98	賛花園
32	3.2	2	0.04	99.82	2	0.00	99.98	世界的
33	13.0	2	0.04	99.86	2	0.00	99.98	the
34	2.4	1	0.02	99.88	2	0.00	99.99	包帯する
35	5.3	1	0.02	99.91	1	0.00	99.99	御ん
36	6.1	1	0.02	99.93	1	0.00	99.99	ー (挿入辞)
37	7.0	1	0.02	99.95	1	0.00	99.99	っ (末尾音)
38	7.3	1	0.02	99.97	1	0.00	99.99	がる (接尾)
39	20.5	1	0.02	99.99	1	0.00	99.99	苦がぎゃ (連語)

位から21位の11項目で、異なり語率は10%弱である。この中には、8.0 [助詞]、9.0 [助動詞]、10. [補助用言] が含まれている。また、2.5 [自然及び自然現象 (用)]、3.5 [自然及び自然現象 (用)] も含まれている。さらに22位以下の18項目は全部で僅か1%の異なり語率である。20.1、20.3、20.5. [縮約語]、9.1、9.3 [助動詞]、7.0、7.1、7.2、7.3 [接尾辞]、15.12、15.4など人名以外の固有名詞、3.2、2.4などの新設項目、6.1 [接中辞]などで、実質的意義を持つ語は少ない。

表2の度数順(使用率)にみると、8.0 [助詞] が断然1位、2位が9.0 [助動詞]、10位にも8.1 [助詞] が位置し、この3項目を合わせると度数率45%を超える。そして13位までで度数率90%を超える。その中に、10.1 [補助用言] が入ってきており、文法機能語が度数率では半数以上になる。

使用度数を考えると、助詞・助動詞が上位を占めることは当然だろう。8.0、9.0を除けば、語数・度数ともに1.1 [抽象的關係(体)] の語彙が最上位にあり、用の類、相の類の2.1、3.1も共に上位にある。次いで、語数では1.3 [人間活動(体)]、2.3 [人間活動(用)] が上位2位、3位に位置したが、度数順では2.3は4位、1.3は8位に後退、3.3 [人間活動(相)] も語数では10位であり、度数としては17位である。1.4 [道具と生産物] は語数では5位、度数では11位である。1.2 [活動の主体] は7位であるが、固有名詞を分離して、15.2としてあることが影響している。これを合わせれば、3位になる。度数では、1.1に次いで4位になる(助詞・助動詞を除けば2位)。
[自然及び自然現象] に属する語彙は、語数で1.5の8位が最高であり、3.5、2.5はかなり低い。度数でも更に位地は低下している。

1.1.1.2 部門別大分類による観察

整数部分を外した部門別大分類(小数点1桁目での分類)で全体・高位語・少数語を見ておこう。

全体では、.1 [抽象的關係] 11項目1610語17491度数、.2 [人間活動の主体] 4項目553語5042度数、.3 [人間活動] 11項目1414語8434度数、.4 [生産物と道具] 3項目399語1649度数、.5 [自然及び自然現象] 5項目462語2130度数、その他5項目90語26374度数である。1位 .1 [抽象的關係]、2位 .3 [人間活動]、3位 .2 [人間活動の主体]、4位 .5 [自然及び自然現象]、5位 .4 [生産物と道具]、度数順でも同じ順位である(.0 [助詞・助動詞等] を除く)。

上位語彙ではどうか。

.1 [抽象的關係] 8項目155語13019度数、.2 [人間活動の主体] 2項目39語3701度数、.3 [人間活動] 7項目74語、4883度数、.4 [生産物と道具] 1項目15語548度数、.5 [自然及び自然現象] 2項目15語727度数、.0 [助詞・助動詞類] は3項目、45語26167度数である。語数での順位は .4 [生産物と道具] と .5 [自然及び自然現象] が同数だが、度数も合わせてみれば全体の場合と同じである。

中間語彙では、.1 [抽象的關係] 723語3740度数、.2 [人間活動の主体] 218語1045度数、.3 [人間活動] 613語2824度数、.4 [生産物と道具] 178語895度数、.5 [自然及び自然現象] 239語1195度数、.0 [助詞・助動詞類] 31語193度数、語数・度数とも順位は同じ。全体・上位語彙より、.2 [人間活動の主体] が下がり、.5 [自然及び自然現象] が上がっている。.4 [生産物と道具] は同様に最下位である。

語数1語彙では、.1 [抽象的關係] が9項目732語語と一番多く、.3 [人間活動] が

8項目727語語、.5〔自然及び自然現象〕は5項目208語、.2〔人間活動の主体〕は4項目296語、.4〔生産物と道具〕は2項目206語、.0〔助詞・助動詞類〕は4項目14語である。語数と度数で若干順位に差が出るが、.4〔生産物と道具〕は最下位である。

以上のように、部門別の意味分野別構造を整数部分を外して概観すると、.1〔抽象的關係〕語彙が一番多く、次が、.3〔人間活動〕語彙、.2〔人間活動の主体〕である。.4〔生産物と道具〕の物を表す語彙、.5〔自然及び自然現象〕自然關係の語彙が割合少ないということが言える。ただ、中間語彙・度数1語彙では、.2〔人間活動の主体〕のほうが、.5〔自然及び自然現象〕より下に来ている。.4〔生産物と道具〕は常に最下位、.0〔助詞・助動詞類〕は語数と度数がアンバランスで同じようには扱えない。この助詞・助動詞關係は語数は少ないが、使用率は非常に高い。他の補助用言と共に、文法機能語の様子を示すものである。

1.1.1.3 上位語彙の部門別意味分野別構造

つぎに、上位語彙の意味分野別構造を見る。上位語彙は、全体の内の343位までの語彙である。表3にその語数順に見たもの、表4に度数順に見たものを示す。上位語彙は23のカテゴリーしかない。ここでも、度数順に見れば、8.0〔助詞〕、9.0〔助動詞〕が最上位にある。全体との比較は、比率の差とその比を元以後ほど分析するが、その特徴を一瞥しておく。

表3 『窓ぎわのトットちゃん』上位語彙部門別構造 語数順

	部門	語数	語数率	累積語数率	度数	度数率	累積度数率
1	3.1	52	15.16	15.16	3195	6.51	6.51
2	1.1	44	12.82	27.98	3482	7.09	13.61
3	2.3	39	11.37	39.35	3122	6.36	19.97
4	8.0	37	10.78	50.14	20325	41.43	61.41
5	1.2	28	8.16	58.30	2348	4.78	66.20
6	2.1	28	8.16	66.47	2037	4.15	70.35
7	1.3	16	4.66	71.13	589	1.20	71.55
8	1.4	15	4.37	75.51	548	1.11	72.67
9	1.5	14	4.08	79.59	642	1.30	73.98
10	15.2	11	3.20	82.79	1353	2.75	76.73
11	8.1	9	2.62	85.42	1653	3.37	80.11
12	4.1	8	2.33	87.75	603	1.22	81.33
13	9.0	7	2.04	89.79	5742	11.70	93.04
14	9.1	7	2.04	91.83	794	1.61	94.66
15	10.3	7	2.04	93.87	720	1.46	96.13
16	10.1	5	1.45	95.33	1024	2.08	98.22
17	3.3	5	1.45	96.79	174	0.35	98.57
18	4.3	4	1.16	97.95	101	0.20	98.78
19	20.1	2	0.58	98.54	231	0.47	99.25
20	9.3	2	0.58	99.12	117	0.23	99.49
21	20.0	1	0.29	99.41	104	0.21	99.70
22	15.5	1	0.29	99.70	85	0.17	99.87
23	20.3	1	0.29	99.99	60	0.12	99.99

表4 『窓ぎわのトットちゃん』上位語彙部門別構造 度数順

	部門	語数	語数率	累積語数率	度数	度数率	累積度数率
1	8.0	37	10.78	10.78	20325	41.43	41.43
2	9.0	7	2.04	12.82	5742	11.70	53.14
3	1.1	44	12.82	25.65	3482	7.09	60.24
4	3.1	52	15.16	40.81	3195	6.51	66.75
5	2.3	39	11.37	52.18	3122	6.36	73.12
6	1.2	28	8.16	60.34	2348	4.78	77.90
7	2.1	28	8.16	68.51	2037	4.15	82.06
8	8.1	9	2.62	71.13	1653	3.37	85.43
9	15.2	11	3.20	74.34	1353	2.75	88.19
10	10.1	5	1.45	75.80	1024	2.08	90.27
11	9.1	7	2.04	77.84	794	1.61	91.89
12	10.3	7	2.04	79.88	720	1.46	93.36
13	1.5	14	4.08	83.96	642	1.30	94.67
14	4.1	8	2.33	86.29	603	1.22	95.90
15	1.3	16	4.66	90.96	589	1.20	97.10
16	1.4	15	4.37	95.33	548	1.11	98.22
17	20.1	2	0.58	95.91	231	0.47	98.69
18	3.3	5	1.45	97.37	174	0.35	99.04
19	9.3	2	0.58	97.95	117	0.23	99.28
20	20.0	1	0.29	98.25	104	0.21	99.49
21	4.3	4	1.16	99.41	101	0.20	99.70
22	15.5	1	0.29	99.70	85	0.17	99.87
23	20.3	1	0.29	99.99	60	0.12	99.99

語数で上位は、3.1 [抽象的關係 (相)]、1.1 [抽象的關係 (体)]、2.3 [人間活動 (用)] に次いで、8.0 [助詞] がきている。これだけで上位語彙の半数を超す。活動の主体は1.2と15.2を加えると、2.3 [人間活動 (用)] と並ぶ。1.4 [道具と生産物]、1.5 [自然及び自然現象 (体)] は8位と9位、2.5 [自然及び自然現象 (用)]、3.5 [自然及び自然現象 (相)] は上位語彙には出現しない。

度数順にみると、8.0 [助詞]、9.0 [助動詞] で53%を超える。自立語では、1.1 [抽象的關係 (体)]、3.1 [抽象的關係 (相)]、2.1 [抽象的關係 (用)]、2.3 [人間活動 (用)] が上位にくる。活動の主体は1.2と15.2を加えると、1.1 [抽象的關係 (体)] より多く、助詞、助動詞を除けば最高である。他に、8.1 [助詞]、10.1 [補助用言]、9.1 [助動詞] など1関係語彙が割合目立っている。10位までで90%を超える。

1.3 [人間活動 (体)]、3.3 [人間活動 (相)] は15位、18位とかなり下位であり、合わせても1.5%の使用率である。1.4 [生産物と道具]、1.5 [自然及び自然現象 (体)] も1.3%、1.1%である。

1.1.1.4 中間語彙の意味分野別構造

中間語彙についても同様に示す。中間語彙が所属するカテゴリー数は全体39カテゴリー中30である。語数上位のカテゴリーも度数上位のカテゴリーも殆ど差がない。助

表5 『窓ぎわのトットちゃん』中間語彙部門別構造 語数順

	部門	語数	語数率	累積語数率	度数	度数率	累積度数率
1	1.1	274	13.69	13.69	1248	12.61	12.61
2	1.3	241	12.04	48.22	991	10.01	45.42
3	2.1	234	11.69	25.38	1236	12.49	25.10
4	2.3	216	10.79	36.18	1019	10.30	35.40
5	1.4	177	8.84	65.31	893	9.02	64.15
6	3.1	165	8.24	56.47	960	9.70	55.12
7	1.5	155	7.74	73.06	812	8.20	72.36
8	1.2	143	7.14	80.20	644	6.50	78.87
9	3.3	84	4.19	84.40	451	4.55	83.43
10	15.2	74	3.69	88.10	399	4.03	87.46
11	4.3	57	2.84	90.95	275	2.77	90.24
12	3.5	48	2.39	93.35	224	2.26	92.50
13	2.5	30	1.49	97.20	137	1.38	96.95
14	8.0	25	1.24	94.60	156	1.57	94.08
15	4.1	22	1.09	95.70	147	1.48	95.57
16	10.1	11	0.54	97.75	73	0.73	97.69
17	10.3	9	0.44	98.20	50	0.50	98.20
18	20.1	7	0.34	98.55	36	0.36	98.56
19	15.5	6	0.29	99.10	22	0.22	99.01
20	9.0	5	0.24	98.80	23	0.23	98.79
21	8.1	4	0.19	99.30	18	0.18	99.20
22	15.1	3	0.14	99.50	15	0.15	99.53
23	20.3	2	0.09	99.65	10	0.10	99.77
24	7.1	2	0.09	99.75	8	0.08	99.85
25	15.3	2	0.09	99.85	5	0.05	99.90
26	8.3	1	0.04	99.35	18	0.18	99.38
27	20.0	1	0.04	99.55	14	0.14	99.67
28	9.3	1	0.04	99.90	5	0.05	99.95
29	7.2	1	0.04	99.95	2	0.02	99.97
30	2.4	1	0.04	99.99	2	0.02	99.99

詞や助動詞もほぼ同様の順位に出現している。中間語彙に出現する助詞や助動詞は、特別使用度数の大きいものではなく、まさに中間語彙の性格を示す。これが、積極的に目立つところはないが、中間語彙の性質を示す特徴なのであろう。

中間語彙の意味分野別構造の様子を概観しておこう。

語数順にみると、1.1 [抽象的關係 (体)]、1.3 [人間活動 (体)]、2.1 [抽象的關係 (用)]、2.3 [人間活動 (用)] の順で、この4項目でほぼ半数に達する。次いで、1.4 [道具と生産物]、3.1 [抽象的關係 (相)]、1.5 [自然及び自然現象 (体)]、1.2 [人間活動の主体] が続き、これで80%になり、1.2 [人間活動の主体] に15.2 [固有人名] を加えると2.3 [人間活動 (用)] を抜き、2.1 [抽象的關係 (用)] に次いで4位になる。

11位から15位までは、4.3 [感動]、3.5 [自然及び自然現象 (相)]、2.5 [自然及び自然現象 (用)] 4.1 [接続]、のほかに、8.0 [助詞] がある。

16位以下の10.1・10.3 [補助用言] 等は20位の9.0 [助動詞] などと共に、語数11語

表6 『窓ぎわのトットちゃん』中間語彙部門別構造 度数順

	部門	語数	語数率	累積語数率	度数	度数率	累積度数率
1	1.1	274	13.69	13.69	1248	12.61	12.61
2	2.1	234	11.69	25.38	1236	12.49	25.10
3	2.3	216	10.79	36.18	1019	10.30	35.40
4	1.3	241	12.04	48.22	991	10.01	45.42
5	3.1	165	8.24	56.47	960	9.70	55.12
6	1.4	177	8.84	65.31	893	9.02	64.15
7	1.5	155	7.74	73.06	812	8.20	72.36
8	1.2	143	7.14	80.20	644	6.50	78.87
9	3.3	84	4.19	84.40	451	4.55	83.43
10	15.2	74	3.69	88.10	399	4.03	87.46
11	4.3	57	2.84	90.95	275	2.77	90.24
12	3.5	48	2.39	93.35	224	2.26	92.50
13	8.0	25	1.24	94.60	156	1.57	94.08
14	4.1	22	1.09	95.70	147	1.48	95.57
15	2.5	30	1.49	97.20	137	1.38	96.95
16	10.1	11	0.54	97.75	73	0.73	97.69
17	10.3	9	0.44	98.20	50	0.50	98.20
18	20.1	7	0.34	98.55	36	0.36	98.56
19	9.0	5	0.24	98.80	23	0.23	98.79
20	15.5	6	0.29	99.10	22	0.22	99.01
21	8.1	4	0.19	99.30	18	0.18	99.20
22	8.3	1	0.04	99.35	18	0.18	99.38
23	15.1	3	0.14	99.50	15	0.15	99.53
24	20.0	1	0.04	99.55	14	0.14	99.67
25	20.3	2	0.09	99.65	10	0.10	99.77
26	7.1	2	0.09	99.75	8	0.08	99.85
27	15.3	2	0.09	99.85	5	0.05	99.90
28	9.3	1	0.04	99.90	5	0.05	99.95
29	7.2	1	0.04	99.95	2	0.02	99.97
30	2.4	1	0.04	99.99	2	0.02	99.99

以下、中間語彙30カテゴリーの半数を占めるが、語数率で言えば2.79%にしかならない。この中には、10.1、10.3 [補助用言]、9.0、9.3 [助動詞]、8.1、8.3 [助詞] (8.0 [助詞] は14位)、20.0、20.1、20.3 [縮約語]、15.1、15.3、15.5 人名以外の [固有名詞]、7.1、7.3 [接尾語] など主として文法機能語が含まれる。他に、2.4新設コードもあり、広範な分野がある。

度数の点でみると、1.1 [抽象的關係 (体)]、2.1 [抽象的關係 (用)]、2.3 [人間活動 (用)] 1.3 [人間活動 (体)] の順で、語数順と比べて1.3 [人間活動 (体)] が2位から4位になっているが、1位から4位までの項目内容は同じであり、これだけで、45%を超える。次に、3.1 [抽象的關係 (相)]、1.4 [生産物と道具]、1.5 [自然及び自然現象 (体)]、1.2 [人間活動の主体]、3.3 [人間活動 (相)] と語数順と似たような順位である。この9項目で83%を超え、10位の15.2 [固有人名] と1.2 [人間活動の主体] を加えると語数順の場合より順位は高く、3位になる。

11位以下は、順位が多少変わるが、語数順の場合と項目は同じである。15位までで、97%弱である。16位以下も、順位に多少の変動はあるが、語数順みたとときとほぼ同じ事が言える。使用率も合わせて3%強である。

1.1.1.5 度数1語彙の意味分野別構造

度数1語彙についても、同様に示しておく。度数1であるから、語数・度数とも同じである。従って、度数順も語数順も同じである。

32の категорияに度数1の語がある。24位以下の9つの categoriaには1語しか無く、15位以下の9 categoriaにも僅かな語しかない。14位までで98%に達する。それはそれとして、度数1語彙は、上位語彙、中間語彙よりも語数は多く、その結果であろうか、分布する categoriaも上位語彙(23分野)、中間語彙(30分野)のいずれよりも多い。

表7 『窓ぎわのトットちゃん』度数1語彙部門別構造 語数度数順

	部門	語数度数	語数度数率	累積語数度数率
1	1.1	344	15.75	15.75
2	1.3	327	14.97	30.73
3	2.3	239	10.94	41.68
4	2.1	224	10.26	51.94
5	1.4	203	9.29	61.24
6	1.2	174	7.97	69.21
7	3.1	149	6.82	76.04
8	1.5	144	6.59	82.63
9	15.2	118	5.40	88.04
10	3.3	111	5.08	93.12
11	4.3	38	1.74	94.86
12	3.5	36	1.64	96.51
13	2.5	23	1.05	97.57
14	8.0	10	0.45	98.03
15	15.3	9	0.41	98.44
16	4.1	6	0.27	98.71
17	10.1	4	0.18	98.90
18	15.5	4	0.18	99.08
19	15.4	3	0.13	99.22
20	7.1	2	0.09	99.31
21	7.2	2	0.09	99.40
22	3.2	2	0.09	99.49
23	13.0	2	0.09	99.58
24	10.3	1	0.04	99.63
25	20.1	1	0.04	99.67
26	9.0	1	0.04	99.72
27	8.1	1	0.04	99.77
28	5.3	1	0.04	99.81
29	6.1	1	0.04	99.86
30	7.0	1	0.04	99.90
31	7.3	1	0.04	99.95
32	20.5	1	0.04	99.99

順位をみると、1.1 [抽象的關係 (体)]、1.3 [人間活動 (体)]、2.3 [人間活動 (用)]、2.1 [抽象的關係 (用)] の順で、この4項目で、52%弱、5位の1.4 [生産物と道具] までは、200語以上、次に1.2 [人間活動の主体]、3.1 [抽象的關係 (相)]、1.5 [自然及び自然現象 (体)]、15.2 [固有人名]、3.3 [人間活動 (相)] までは100語以上有り、ここまでで93%を超える。1.2と15.2を加えると第3位になる。11位から14位は、4.3 [感動]、3.5 [自然及び自然現象 (相)]、2.5 [自然及び自然現象 (用)]、8.0 [助詞] で、38語から10語である。

15位から23位の9項目は、9語から2語、全部で34語、僅かに1.5%を占めるに過ぎない。15.3、15.5、15.4 [固有名詞 (人名以外)]、4.1 [接続]、10.1 [補助用言]、7.1、7.2 [接尾辞]、13.0 [冠詞] 3.2新設項目である。

以下9項目は全て1語だけ、10.3 [補助用言]、20.1、20.5 [縮約語]、9.0 [助動詞]、8.1 [助詞]、5.3 [接頭語]、6.1 [接中辞]、7.0、7.3 [接尾辞] である。全部で0.4%にすぎない。

ここで少し興味を引くことがある。1位から5位の項目の順序である。この順序は、全体の語数順の排列と完全に一致する。6位の1.2と7位の3.1を逆にすると、12位まで一致し、更に13位の2.5と14位の8.0を入れ替えると、14位まで、全体の語数順の順位と一致するのである。2箇所に入れ替えはともかくとして、5位までは完全に一致する。他にどの表でもこのようなことはない。僅かに中間語彙の語数順の表が、3位と4位を入れ替えると一致するだけである。

つまり度数1語彙の上位語群は全体の上位語群と語数率の面では一致するという事である。2箇所に入れ替えを認めるとすれば、度数1語彙ではその98%弱、全体では96%強の語彙が語数の面ではパラレルになるということ、度数1語彙によって、全体の異なり語の縮図が描けるということの意味する。入れ替えを認めないとしても、5位までで全体の58%弱、度数1語彙の61%強の語群の部門別意味分野が一致するのである。

もっと大雑把に言うならば、度数1語彙は、異なり語の面では、全語彙の縮図になっているということである。このことは、語彙を考えていく上では大変重要な手がかりになると思う。但し、これは『窓』語彙を分析した結果であり、他に及ぼせるかどうかは、他の語彙によって検証する必要があることは、言うまでもない。

1.1.2 部門別意味分野構造の比較

部門別意味分野構造の、全体と上位語彙のそれを比較してみるとどうか、全体と中間語彙と比較したらどうか、全体と度数1の語彙との比較はどうか、これについて、次に検討する。

1.1.2.1 全体と上位語彙の意味分野別構造の比較

語数、度数について、全体ではどうか、上位語彙の中ではどうか、ということを基準に考えてみよう。それぞれにおける比率を算出した上で、その差と比を基準にして観察

する。既に、述べた点もあるが、もう少し詳しくみてみよう。〔この差というのは、全体の語数率－上位語彙の語数率。比は、上位語彙の語数率÷全体の語数率〕

全体と上位語彙とを語数の観点で比べてみる。その語数の比率を比較して、大きな差がある分野は、1.3 [人間活動 (体)]、1.4 [生産物と道具]、3.3 [人間活動 (相)]、1.5 [自然及び自然現象 (体)]、2.1 [抽象的關係 (用)]。比率の差は2.5%～8.2%で全体の方が大きい。逆に上位語彙の方が大きい物もある (後述)。

比率の差だけでなく、それぞれの語数率の比を比べてみる。上位語彙の語数率が全体のその5倍以上になる項目は、助詞・助動詞・補助動詞と縮約語の7項目である (表8の「比1」)。これは、多くの助詞・助動詞・補助動詞が上位語彙として出現しており、全体でもさほど増えないからである。従って、上位語彙中に集中することになり、比率の上で大きな開きが出るのである。ただ、度数の比率を比べると、語数で見ると同様な順位であるが、倍率は小さい。助詞・助動詞でも1.24倍、1.23倍である (表8の「比2」)。この原因は、上位語彙は語数では全体の7.5%にしかならないのに対して、度数では80%にもなるので、上位語彙での語数率は全体に比べて非常に大きくなるが、度数率は上位語彙でもさほど大きくはならないということである。つまり、分母が大きくなるからである。この助詞・助動詞・補助動詞に関する比較は上位語彙と全体との大きな違いを表していることを確認できる。

上記の語数率の差の大きい項目について、語数率の比でみると0.33から0.59であり、度数率の比でも、0.29から0.50といずれも、最低のところにある (但し、2.1は0.72と0.76と少し大きい)。つまり、語数率でも、度数率 (=使用率) でも、全体のそれと比べてほぼ半分以下である事を示している。

上位語彙は全体と比べてみると、こういう、実質的な意味を担う語が少ないことを示している。

逆に、差のマイナスの数値が大きい項目 (つまり、上位語彙の語数率の高い項目) は最大が8.0 [助詞] で、9.19%である。これは度数率の差でも7.91であり、比の面でも、最大ではないが、語数率で、6.78倍、度数率では1.23倍である。これは特別である。

あと、語数率で差の大きいのは3.1 [抽象的關係 (相)] が7.07で、比は1.87倍である。その他は8.1 [助詞]、9.1、9.0 [助動詞]、10.3 [補助用言]、4.1 [接続] などである。この中で3.1 [抽象的關係 (相)] はかなり目立つ項目で、注目しておく必要がある。全体に比べ語数率がかかなり高く、その比率も2倍近い。典型的な文法機能語以外でそれに近い働きをする語彙として目立つ存在である。

以上が、語数率からみた上位語彙と、全体との違いである。

度数率からみるとどうか。1.3 [人間活動 (体)]、1.4 [生産物と道具]、2.1 [抽象的關係 (用)]、1.5 [自然及び自然現象 (体)]、1.1 [抽象的關係 (体)] が全体の方が大きい。しかし余り大きな差ではない。これらを比でみると、1.1 [抽象的關係 (体)]、2.1

表8 『窓ぎわのトットちゃん』上位語彙と全体の比較 比と差 (比1降順)

	部門	差1	差2	語数全	度数全	語数上	度数上	語数率全	語数率上	度数率全	度数率上	比1	比2
1	9.1	-1.88	-0.31	7	794	7	794	0.15	2.04	1.29	1.61	13.20	1.24
2	9.3	-0.51	-0.03	3	122	2	117	0.06	0.58	0.19	0.23	8.80	1.19
3	8.1	-2.31	-0.63	14	1672	9	1653	0.30	2.62	2.73	3.37	8.48	1.23
4	9.0	-1.75	-2.27	13	5766	7	5742	0.28	2.04	9.43	11.70	7.10	1.24
5	8.0	-9.19	-7.91	72	20491	37	20325	1.59	10.78	33.51	41.43	6.78	1.23
6	20.0	-0.24	-0.01	2	118	1	104	0.04	0.29	0.19	0.21	6.60	1.09
7	10.3	-1.66	-0.20	17	771	7	720	0.37	2.04	1.26	1.46	5.43	1.16
8	20.3	-0.22	0.00	3	70	1	60	0.06	0.29	0.11	0.12	4.40	1.06
9	10.1	-1.01	-0.28	20	1101	5	1024	0.44	1.45	1.80	2.08	3.30	1.15
10	4.1	-1.53	0.00	36	756	8	603	0.79	2.33	1.23	1.22	2.93	0.99
11	20.1	-0.36	-0.03	10	268	2	231	0.22	0.58	0.43	0.47	2.64	1.07
12	3.1	-7.07	0.52	366	4304	52	3195	8.08	15.16	7.04	6.51	1.87	0.92
13	15.5	-0.04	0.00	11	111	1	85	0.24	0.29	0.18	0.17	1.20	0.95
14	1.2	-0.54	0.39	345	3166	28	2348	7.61	8.16	5.17	4.78	1.07	0.92
15	2.3	-0.46	0.80	494	4380	39	3122	10.90	11.37	7.16	6.36	1.04	0.88
16	1.1	1.81	1.20	663	5073	44	3482	14.64	12.82	8.30	7.09	0.87	0.85
17	2.1	2.56	1.56	486	3497	28	2037	10.73	8.16	5.72	4.15	0.76	0.72
18	15.2	1.27	0.30	203	1870	11	1353	4.48	3.20	3.05	2.75	0.71	0.90
19	1.5	2.83	1.30	313	1598	14	642	6.91	4.08	2.61	1.30	0.59	0.50
20	4.3	1.02	0.47	99	414	4	101	2.18	1.16	0.67	0.20	0.53	0.30
21	1.4	4.35	1.57	395	1644	15	548	8.72	4.37	2.68	1.11	0.50	0.41
22	1.3	8.23	1.91	584	1907	16	589	12.89	4.66	3.12	1.20	0.36	0.38
23	3.3	2.95	0.84	200	736	5	174	4.41	1.45	1.20	0.35	0.33	0.29
24	3.5	1.85	0.42	84	260	0	0	1.85	0.00	0.42	0.00	0.00	0.00
25	2.5	1.17	0.26	53	160	0	0	1.17	0.00	0.26	0.00	0.00	0.00
26	15.3	0.24	0.02	11	14	0	0	0.24	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00
27	7.1	0.08	0.01	4	10	0	0	0.08	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00
28	15.1	0.06	0.02	3	15	0	0	0.06	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00
29	7.2	0.06	0.00	3	4	0	0	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
30	15.4	0.06	0.00	3	3	0	0	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
31	3.2	0.04	0.00	2	2	0	0	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
32	13.0	0.04	0.00	2	2	0	0	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
33	8.3	0.02	0.02	1	18	0	0	0.02	0.00	0.02	0.00	0.00	0.00
34	2.4	0.02	0.00	1	2	0	0	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
35	5.3	0.02	0.00	1	1	0	0	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
36	6.1	0.02	0.00	1	1	0	0	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
37	7.0	0.02	0.00	1	1	0	0	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
38	7.3	0.02	0.00	1	1	0	0	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
39	20.5	0.02	0.00	1	1	0	0	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

[抽象的關係 (用)] が0.85、0.72とやや大きいですが、他は0.5以下である。上位語彙の方が差が大きい項目は8.0 [助詞]、9.0 [助動詞] でもう少し小さいのも8.1 [助詞]、9.1 [助動詞] などやはり助詞・助動詞である。その他、僅かであるが上位語彙の方が率が高いのは、10.1、10.3 [補助用言]、9.3 [助動詞]、20.0、20.1 [縮約語] である。比ではさほど注目すべき事はない。

1.1.2.2 全体と中間語彙の意味分野別構造の比較

前項と同様に、中間語彙と全体について、その意味分野別構造を観察してみよう。

語数率に関して言えば、その差は概して大きくない（表9の「差3」）。最大0.90から-0.95の範囲にある。大半の項目21項目（内、8項目は中間語彙は語数0）が0.1から-0.1の間にある。つまり、語数率の上で全体と、中間語彙は割合よく似ていると言えよう。その中で、1.1 [抽象的關係 (体)]、1.3 [人間活動 (体)]、15.2 [固有人名]、1.2 [人間活動の主体] はやや全体に比べて語数率が低く、逆に2.1 [抽象的關係 (用)]、1.5 [自然及び自然現象 (体)]、4.3 [感動]、3.5 [自然及び自然現象 (相)]、2.5 [自然及び自然現象 (用)]、4.1 [抽象的關係] [接続] の各項目は中間語彙の語数率が比較的高くなっている。比から言うと、前者（全体の方が高い項目）は、0.93倍から0.78倍、後者は1.01倍から1.30倍である。いずれも余り問題にはならない。

一方、度数率（使用率）でみると、全体に比べ、極めて顕著に小さいのが、8.0 [助詞] である。これは、前項で述べたことに関連するが、全体の方には多数の助詞がある。中間語彙には助詞は僅少であるということである。9.0 [助動詞] についても差は助詞ほどではないが、かなり小さい。同様の理由である。助詞や助動詞は中間語彙に出現しても、それは稀なものである。度数率の差が全体の方が大きいのは、この他全て助詞・助動詞或いは補助動詞・縮約語である。つまり中間語彙では、こういう類の語はあっても少数であるということである。

逆に、度数率の上で中間語彙が全体より大きくなっているのは、1.3 [人間活動 (体)]、2.1 [抽象的關係 (用)]、1.4 [生産物と道具]、1.5 [自然及び自然現象 (体)]、1.1 [抽象的關係 (体)]、3.3 [人間活動 (相)]、2.3 [人間活動 (用)]、3.1 [抽象的關係 (相)]、4.3 [感動] である。この中で、語数率では低かったのが、1.3 [人間活動 (体)]、1.1 [抽象的關係 (体)]、3.3 [人間活動 (相)]、2.3 [人間活動 (用)] であった。要するに、中間語彙では実質的な意味を担う語彙の使用率が高く、文法的機能を担う語彙が全体に比べてかなり小さな使用率しか持っていないということである。このことは、中間語彙の性格を考える上で重要な事である。表8と同じように、中間語彙について表示する。

中間語彙における語数率と全体における語数率の比3と度数率の比4をみると、比の大きい上位3項目はいずれも語数は僅少で、中間語彙にある語が全てであるというものである。度数率の比で目立つのが、3.5 [自然及び自然現象 (相)]、2.5 [自然及び自然現象 (用)]、4.3 [感動]、3.3 [人間活動 (相)]、1.4 [生産物と道具]、1.3 [人間活動 (体)]、1.5 [自然及び自然現象 (体)]、2.1 [抽象的關係 (用)] などの項目で、いずれも2倍以上、1.1 [抽象的關係 (体)]、2.3 [人間活動 (用)]、3.1 [抽象的關係 (相)]、15.2 [固有人名] も1.51倍から1.31倍でやや目立つ。いずれも全体に比べて、中間語彙が多い項目である。逆に比の小さい項目、つまり、全体に比べて使用率の小さい項目は前述のように、9.0 [助動詞] が0.02、8.0 [助詞] が0.04と極めて小さい。8.0、9.0以外

表9 『窓ぎわのトットちゃん』中間語彙と全体の比較 比と差 (比3降順)

	部門	差3	差4	語数全	度数全	語数中	度数中	語数率全	語数率中	度数率全	度数率中	比3	比4
1	2.4	-0.02	-0.01	1	2	1	2	0.02	0.04	0.00	0.02	2.26	6.17
2	8.3	-0.02	-0.15	1	18	1	18	0.02	0.04	0.02	0.18	2.26	6.17
3	15.1	-0.08	-0.12	3	15	3	15	0.06	0.14	0.02	0.15	2.26	6.17
4	20.1	-0.12	0.07	10	268	7	36	0.22	0.34	0.43	0.36	1.58	0.82
5	20.3	-0.03	0.01	3	70	2	10	0.06	0.09	0.11	0.10	1.50	0.88
6	4.1	-0.30	-0.24	36	756	22	147	0.79	1.09	1.23	1.48	1.38	1.20
7	4.3	-0.66	-2.10	99	414	57	275	2.18	2.84	0.67	2.78	1.30	4.10
8	3.5	-0.54	-1.83	84	260	48	224	1.85	2.39	0.42	2.26	1.29	5.32
9	2.5	-0.32	-1.12	53	160	30	137	1.17	1.49	0.26	1.38	1.28	5.29
10	10.1	-0.10	1.06	20	1101	11	73	0.44	0.54	1.80	0.73	1.24	0.40
11	15.5	-0.05	-0.04	11	111	6	22	0.24	0.29	0.18	0.22	1.23	1.22
12	10.3	-0.07	0.75	17	771	9	50	0.37	0.44	1.26	0.50	1.19	0.40
13	7.1	-0.01	-0.06	4	10	2	8	0.08	0.09	0.01	0.08	1.13	4.94
14	20.0	0.00	0.05	2	118	1	14	0.04	0.04	0.19	0.14	1.13	0.73
15	1.5	-0.82	-5.59	313	1598	155	812	6.91	7.74	2.61	8.20	1.12	3.13
16	2.1	-0.95	-6.77	486	3497	234	1236	10.73	11.68	5.72	12.49	1.08	2.18
17	3.1	-0.15	-2.66	366	4304	165	960	8.08	8.24	7.04	9.70	1.01	1.37
18	1.4	-0.11	-6.33	395	1644	177	893	8.72	8.84	2.68	9.02	1.01	3.35
19	2.3	0.12	-3.13	494	4380	216	1019	10.90	10.78	7.16	10.30	0.98	1.43
20	3.3	0.22	-3.35	200	736	84	451	4.41	4.19	1.20	4.55	0.94	3.78
21	1.1	0.90	-4.30	663	5073	274	1248	14.64	13.73	8.30	12.60	0.93	1.51
22	1.2	0.47	-1.33	345	3166	143	644	7.61	7.14	5.17	6.51	0.93	1.25
23	1.3	0.85	-6.89	584	1907	241	991	12.89	12.03	3.12	10.01	0.93	3.21
24	9.0	0.03	9.20	13	5766	5	23	0.28	0.24	9.43	0.23	0.86	0.02
25	15.2	0.78	-0.97	203	1870	74	399	4.48	3.69	3.05	4.03	0.82	1.31
26	8.0	0.34	31.94	72	20491	25	156	1.59	1.24	33.51	1.57	0.78	0.04
27	7.2	0.01	-0.01	3	4	1	2	0.06	0.04	0.00	0.02	0.75	3.08
28	9.3	0.01	0.14	3	122	1	5	0.06	0.04	0.19	0.05	0.75	0.25
29	8.1	0.10	2.55	14	1672	4	18	0.30	0.19	2.73	0.18	0.64	0.06
30	15.3	0.14	-0.02	11	14	2	5	0.24	0.09	0.02	0.05	0.41	2.20
31	5.3	0.02	0.00	1	1	0	0	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
32	6.1	0.02	0.00	1	1	0	0	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
33	7.0	0.02	0.00	1	1	0	0	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
34	7.3	0.02	0.00	1	1	0	0	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
35	20.5	0.02	0.00	1	1	0	0	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
36	3.2	0.04	0.00	2	2	0	0	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
37	13.0	0.04	0.00	2	2	0	0	0.04	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
38	15.4	0.06	0.00	3	3	0	0	0.06	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
39	9.1	0.15	1.29	7	794	0	0	0.15	0.00	1.29	0.00	0.00	0.00

の助詞、助動詞を含めても僅かである。他に、補助用言、縮約語も小さな比率である。前述の通り、これが、中間語彙の意味分野別構造の大きな特徴と言える。

1.1.2.3 全体と度数1語彙の意味分野別構造の比較

度数1の語彙と、全体の意味分野別構造の比較を試みる。

語数率の比較で、度数1語彙の方が大きい項目は、1.3 [人間活動(体)]、1.1 [抽象

的關係(体)]、15.2 [固有人名]、3.3 [人間活動(相)]、1.4 [生産物と道具]、1.2 [人間活動の主体] などである。中でも1.3 [人間活動(体)] は他の項目より若干差が大きく、特に、度数率ではかなり大きな差がある。逆に、全体の方が大きい項目は、3.1 [抽象的關係(相)]、8.0 [助詞]、4.1 [接続]、2.1 [抽象的關係(用)]、4.3 [感動] などの項目である。他は、その差が0.32から-0.16の範囲にある。

一方度数率(使用率)の比較では、度数1語彙の方が大きいのは1.3 [人間活動(体)] が前述の如くかなりの差で大きく、1.1 [抽象的關係(体)]、1.4 [生産物と道具]、2.1 [抽象的關係(用)]、1.5 [自然及び自然現象(体)]、3.3 [人間活動(相)]、2.3 [人間活動(用)]、1.2 [人間活動の主体]、15.2 [固有人名] が、2%以上の差を付けている。逆に、全体の方が大きいのは、8.0 [助詞]、9.0 [助動詞] が大きな差を付けており、他に、8.0、9.0以外の助詞、助動詞と、補助用言が度数1語彙に差を付けている。4.1 [接続] は全体の方が大きい。あとの20項目は0.39から-0.38の範囲にある。

また、2.5 [自然及び自然現象(用)] は余り頻度の高い語群ではなく目立たないが、語数率では全体の方が高く、度数率では度数1語彙の方に高くなっているこのように、語数率と度数率とでねじれ現象が見られる。こういう項目は他にも、2.1 [抽象的關係(用)]、1.5 [自然及び自然現象(体)]、3.5 [自然及び自然現象(相)]、4.3 [感動] などの項目にみられる。上位語彙と全体、中間語彙と全体の比較においてもこういう現象はあったが、これほど多くなかった。また、逆の場合、語数率が全体で低く、度数率では高いという項目も当然ある。この、ねじれ現象は、異なりと延べという語彙の両側面が別々のものであることを示すのはもちろんであるが、全体と部分を考える上で、一つのヒントを与えていると思われる。

これらの項目のねじれが何を示すか具体的に考えてみよう。

2.5 [自然及び自然現象(用)] は全体で53語160度数、度数1語彙で23語、語数率の差は全体が、0.11%高く、度数率は全体が、0.79%低い。このカテゴリーの語は度数1語彙以外で、30語137度数使われている計算であるが、この数字からは頻用される語群ではないことを示す(一語平均の使用回数は全体では13.50、この語群では全体で3.01、度数1語彙の分を除くと4.56である)。何処にでも使われる語群ではなく、題材の叙述に関して必要な場合に限り用いられる語群だという事を示す。因みに、上位語彙にはこのカテゴリーの語は出現しない。

他の場合も同様に言えるか。

2.1 [抽象的關係(用)] はどうか。全体で486語3497度数、度数1語彙で224語。語数率で、全体が0.47%高く、度数率では4.53%も全体の方が低くなっている。全体の度数率5.72%、語数率10.74%、度数1語彙では共に10.27%。語数率は大差ないが、度数率は倍近い差がある。大して頻用する語群ではなく、度数1語彙に多数有るということである。これだけでは、余りはつきりしない。上位語彙と中間語彙の様子を見ると、中

中間語彙では2.1 [抽象的關係 (用)] は全体に比べ両率とも最も全体より大きい。上位語彙では、逆に全体の方が共に上位語彙より大きい。つまり、上位語彙的性格の語群ではない。中間語彙以下に割合使われるというものであることを示す。NK 値も平均13.50 に比べ7.19と小さい (自立語だけの全体のNK 値7.32よりも小さい)。

2.5の場合とは事情が異なることが分かる。こういう、逆転現象のあるところについては、検討してみると色々の問題が浮かび上がって来るであろう。

次に、前項同様、各々の語数率、度数率の比率で観察してみよう。

度数1 語彙においては、語数と度数は同じである。比率の高い項目は、10位までは全く同じ。その上、8位までは、度数1 語彙の語数がそのまま全体の語数である。語数の小さなもので、全体でも、度数1 語彙でも、例えば、共に語数 (度数) 1の場合、度数1 語彙では分母が全体より当然小さいので、その差が大きくなって、比が28.01にもなるのである。これは、度数1 語彙の度数と、全体の度数の比に等しい ($61124 \div 2182 = 28.01$)。33位以下は度数1 語彙は度数0なので、比較は32位までである。語数率の比で、度数1 語彙が大きいのは、語数の少ない10位までのものは除けば、15.2 [固有人名] 1.3 [人間活動 (体)]、3.3 人間活動 (相) くらいである。これも1.20倍から1.15倍である。逆に度数1 語彙で比の小さいのは、10.3、8.0、9.0、8.1、20.3などの助詞・助動詞・補助用言、縮約語など、一般によく使われる語群である。それが偶々、度数1 語彙に出現するものが有ったということで、8.0 [助詞] 以外はいずれも1語1回の使用である。語数の多い項目では、1.07倍から0.79倍の範囲にある。これは、文法機能語ではなく、まさに実質の意味を担う語群である。

度数率の比をみると若干異なる。比の大きい10位までは語数率の場合と変わらない。ところが、1.3 [人間活動 (体)] は語数率で1.16倍でしかなかったのが、度数率では4.80倍、3.3 [人間活動 (相)] は語数率1.15倍が度数率では4.22倍、更に2.5 [自然及び自然現象 (用)] は語数率では0.90倍なのに、度数率では4.02倍であり、3.5 [自然及び自然現象 (相)] も0.88倍が、3.87倍、1.4 [生産物と道具] は1.06倍が3.45倍、4.3 [感動] は0.79倍が2.56倍、1.5 [自然及び自然現象 (体)] は0.95倍が2.52倍、となっている。他にも、1.1 [抽象的關係 (体)]、2.1 [抽象的關係 (用)]、15.2 [固有人名]、1.2 [人間活動の主体]、2.3 [人間活動 (用)] などが度数率からみると全体を上回っている。

これは、語数率で、実質の意味を担う語群が平均的に出現していたことをもう少し、詳しく示しているのである。これを表10に比5 (度数1 語彙語数率 \div 全体の語数率) の降順に示す。

1.1.2.4 小結

今回は、意味分野別構造について、部門別に、全体、上位語彙、中間語彙、度数1 語彙を観察した後、それぞれを全体との比較において分析してみた結果を述べた。

その結果、上位語彙、中間語彙、度数1 語彙のそれぞれの意味分野別構造の特徴を見

表10 『窓ぎわのトットちゃん』度数1語彙と全体の比較 比と差 (比5・6降順)

	部門	差5	差6	語数全	度数全	語数下	度数下	語数率全	語数下率	度数率全	度数下率	比5	比6
1	5.3	-0.02	-0.04	1	1	1	1	0.02	0.04	0.00163	0.04	2.07	27.99
2	6.1	-0.02	-0.04	1	1	1	1	0.02	0.04	0.00163	0.04	2.07	27.99
3	7.0	-0.02	-0.04	1	1	1	1	0.02	0.04	0.00163	0.04	2.07	27.99
4	7.3	-0.02	-0.04	1	1	1	1	0.02	0.04	0.00163	0.04	2.07	27.99
5	20.5	-0.02	-0.04	1	1	1	1	0.02	0.04	0.00163	0.04	2.07	27.99
6	3.2	-0.04	-0.08	2	2	2	2	0.04	0.09	0.00327	0.09	2.07	27.99
7	13.0	-0.04	-0.08	2	2	2	2	0.04	0.09	0.00327	0.09	2.07	27.99
8	15.4	-0.07	-0.13	3	3	3	3	0.06	0.13	0.0049	0.13	2.07	27.99
9	15.3	-0.16	-0.38	11	14	9	9	0.24	0.41	0.0229	0.41	1.69	17.99
10	7.2	-0.02	-0.08	3	4	2	2	0.06	0.09	0.00654	0.09	1.38	13.99
11	7.1	0.00	-0.07	4	10	2	2	0.08	0.09	0.01636	0.09	1.03	5.59
12	1.3	-2.08	-11.85	584	1907	327	327	12.89	14.97	3.12009	14.97	1.16	4.80
13	3.3	-0.66	-3.88	200	736	111	111	4.41	5.08	1.20418	5.08	1.15	4.22
14	2.5	0.11	-0.79	53	160	23	23	1.17	1.05	0.26178	1.05	0.90	4.02
15	3.5	0.20	-1.22	84	260	36	36	1.85	1.64	0.42539	1.64	0.88	3.87
16	1.4	-0.57	-6.60	395	1644	203	203	8.72	9.29	2.68979	9.29	1.06	3.45
17	4.3	0.44	-1.06	99	414	38	38	2.18	1.74	0.67735	1.74	0.79	2.56
18	1.5	0.31	-3.98	313	1598	144	144	6.91	6.59	2.61452	6.59	0.95	2.52
19	1.1	-1.11	-7.45	661	5073	343	343	14.64	15.75	8.30006	15.75	1.07	1.89
20	2.1	0.47	-4.53	486	3497	224	224	10.73	10.26	5.72153	10.26	0.95	1.79
21	15.2	-0.92	-2.34	203	1870	118	118	4.48	5.40	3.05955	5.40	1.20	1.76
22	1.2	-0.35	-2.79	345	3166	174	174	7.61	7.97	5.17997	7.97	1.04	1.53
23	2.3	-0.03	-3.78	494	4380	239	239	10.90	10.94	7.16623	10.94	1.00	1.52
24	15.5	0.05	0.00	11	111	4	4	0.24	0.18	0.1816	0.18	0.75	1.00
25	3.1	1.25	0.21	366	4304	149	149	8.08	6.82	7.04188	6.82	0.84	0.96
26	4.1	0.52	0.96	36	756	6	6	0.79	0.27	1.23691	0.27	0.34	0.22
27	20.1	0.17	0.39	10	268	1	1	0.22	0.04	0.43848	0.04	0.20	0.10
28	10.1	0.25	1.61	20	1101	4	4	0.44	0.18	1.80137	0.18	0.41	0.10
29	10.3	0.32	1.21	17	771	1	1	0.37	0.04	1.26145	0.04	0.12	0.03
30	8.1	0.26	2.68	14	1672	1	1	0.30	0.04	2.7356	0.04	0.14	0.01
31	8.0	1.13	33.06	72	20491	10	10	1.59	0.45	33.5193	0.45	0.28	0.01
32	9.0	0.24	9.38	13	5766	1	1	0.28	0.04	9.4339	0.04	0.15	0.00
33	2.4	0.02	0.00	1	2	0	0	0.02	0.00	0.00327	0.00	0.00	0.00
34	8.3	0.02	0.02	1	18	0	0	0.02	0.00	0.02945	0.00	0.00	0.00
35	9.1	0.15	1.29	7	794	0	0	0.15	0.00	1.29908	0.00	0.00	0.00
36	9.3	0.06	0.19	3	122	0	0	0.06	0.00	0.1996	0.00	0.00	0.00
37	15.1	0.06	0.02	3	15	0	0	0.06	0.00	0.02454	0.00	0.00	0.00
38	20.0	0.04	0.19	2	118	0	0	0.04	0.00	0.19306	0.00	0.00	0.00
39	20.3	0.06	0.11	3	70	0	0	0.06	0.00	0.11452	0.00	0.00	0.00

出すことが出来た。これは、『窓』語彙の観察から得た結果なので、他に適用できるかどうかについては、今後の検討が必要である。

ひき続いて、最初に述べたように、中項目別の分析、コード別の分析、他語彙の一つとして『南』語彙との比較などを行っていくが、本稿で得られた、めばしい点について、摘記しておこう。

1. 全体では .1 [抽象的關係] 語彙が一番多い。 .3 [人間活動]、 .2 [人間活動の主体] と続く。 .4 [生産物と道具]、 .5 [自然及び自然現象] は少ない。
助詞・助動詞は語数は少ないが、使用率が高い。
2. 上位語彙は、全体39カテゴリー中、23カテゴリーに出現する。語数は、3.1 [抽象的關係 (相)]、1.1 [抽象的關係 (体)] が多い。1.2 [人間活動の主体] は15.2 [固有人名] と合わせると、2.3 [人間活動 (用)] と並ぶ。1.4 [生産物と道具]、1.5 [自然及び自然現象 (体)] は少ない。2.5 [自然及び自然現象 (用)]、3.5 [自然及び自然現象 (相)] に属する語は上位語彙に出現しない。
1.3 [人間活動 (体)]、1.4 [生産物と道具]、3.3 [人間活動 (相)]、1.5 自然及び自然現象、2.1 [抽象的關係 (用)] は全体と比べると少ない。8.0 [助詞]、9.0 [助動詞] は5割を超える使用率を持つ。逆に、実質的意義を担う語は少ない。
3. 中間語彙は度数順と語数順がよく似ている。突出したものがないのが特徴。全体と語数率ではよく似ている。文法機能語は少ない。2.1 [抽象的關係 (用)]、1.5 [自然及び自然現象 (体)]、4.3 [感動]、3.5 [自然及び自然現象 (相)]、2.5 [自然及び自然現象 (用)]、4.1 [接続] などは多い。
4. 度数1語彙は全体の異なり語数の意味分野別構造の縮図である。1.3 [人間活動 (体)] の多さが目立つ、3.1 [抽象的關係 (相)] の少なさも目につく。
5. 上位の項目は語数でも、度数でも大きな比率を持ち、逆に、下位の半数は僅かな率しか占めない。
6. 語数率と度数率を全体と比べてみる場合、一方は大であるが他方は小、またはその逆になるねじれ現象がある。その持つ意味を検討する必要がある。

附記 データに若干の訂正が生じたので附記する。

全体4551語 78263度数 上位語彙 343語49049度数

中間語彙 2001語9893度数 度数1語彙 2182語

なお、用語についても、上位語→上位語彙 下位語→度数1語彙とした。

